

第7号 ワークショップで、本当に知恵熱を出してしまった SHG オバチャン

(平成 17 年 3 月 1 日発行)

～ PCUR - LINK 事業のパートナーになるってタイヘンだわ！～

2月7日、第1次選考で生産・物流センター計画&運営委員会に選ばれたオバチャンたち全員を招待して、ワークショップを開始した。委員会に選ばれたのは、3つのグループ。3グループとも、ビシャカパトナム市内最大のスラム、「コバリットタ」にあるグループだった。3つのグループの名前は、それぞれラマニ・グループ、「ディビヤ・グループ」そして「マヒラ・サンガ 16」という。

「ラマニ・グループ」から 13 名、「ディビヤ・グループ」から 20 名、「マヒラ・サンガ 16」からは 10 名の、合計 43 名が、会場に集まった。

ワークショップ会場には、“生産・物流センター計画&運営委員会 第1次選考、「ラマニ」、「ディビヤ」と「マヒラ・サンガ 16」！おめでとう！”という横断幕が掛けられた。

オバチャンたちは、晴れの、運営委員会開始式に、一帳羅のサリーを着てやってきた。開会式では、メンバー全員に花が配られ、運営委員会認定証がソムニード代表理事から手渡された。その後、イラストを豊富に使った今後の事業スケジュールが、LCD プレーヤーで発表された。また、マヒラ・アクションのスタッフは、生産・物流センター計画と、その運営をわかりやすく紹介する寸劇を披露した。

第1日目の運営委員会開始式を後にしたオバチャンたちは、正直なところ、「委員会に選ばれたのはいいけど、センター計画&運営への道のりには、厳しい研修が待っているのでは。。。という予感がしたのであった。2月8日と9日は、3グループからリーダー各2名を対象に、SHGの基礎会計ワークショップが開かれた。この基礎会計、そのままセンター運営に応用できるものである。実は、オバチャンたち、すでに5年も、6年も小規模融資やグループでの貯蓄をやっているにも関わらず、今まで一度も会計の研修を受けたことがない、ということがグループ・ミーティングをモニタリングした結果、判明。

もちろん、SHGの活動を支援してきたスタッフだって、全く会計の研修など受けたことがなかった。それでなぜSHGが可能？という基本的な疑問があるが、会計知識のないままSHGの組織化を行うNGOは、本当に数多い。

実は、会計知識をきちんと持って、SHG活動をするオバチャンたち、NGOの数の方が少ないくらいだ。SHGのオバチャンたちが「帳簿をつける」というのは、単にメンバー個人個人が、毎月いくら貯蓄して、いくら小口融資を受けて、いくら返済したか、というこの3つの記録をつけるだけである。なので、グループ全体として、いくら銀行からローンを借りているか、今までに累計の貯蓄はいくら

になったのが、グループ全体のお金の動きなど、誰もわからない。そこで、リーダーを中心に、SHGの基礎会計研修を行うことになった。生産・物流センター計画&運営委員会の発足にあたり、本格的に、金銭出納簿の付け方、その他各種、帳簿の付け方の基礎の研修が必要になってきた。

この会計基礎研修、おなじみ水戸黄門様がファシリテーター。水戸黄門様が、2万年前の貯蓄の起源、銀行の仕組み(インド中央銀行、一般銀行、SHG)をオバちゃんたちにわかりやすくお話しするところから、研修は始まった。その後、SHGの月ごとのお金の動きをノートに書き込んでゆく「金銭出納簿」の付け方を習ったオバちゃんたち。

水戸黄門様:「SHGのメンバーが貯蓄したお金は、“金銭出納簿”の入金に書き込むべきか? 出金に書き込むべきか?」

オバちゃん1:「えーっと、えーっとSHGのお財布に入ってくるんだから、“入金”だわ!」

水戸黄門様:「それでよしい。それでは、SHGが、グループのメンバーに3,000ルピーの融資をしたと、しよう。それは、“入金”に書き込むべきか?“出金”に書き込むべきか?」

オバちゃん2:「うーん、SHGのお財布から、メンバーのもとへお金が出てゆくんだから、“出金”!」

水戸黄門様:「うん、うん。よくできた。それでは。。。」

という具合に、具体的な例をもとに、朝から夕方まで、SHGの月ごとの「金銭出納簿」の付け方を習ったオバちゃんたち。夕方にワークショップが終わる頃には、もう頭がパンクしそうになっていたが、なんとか「金銭出納簿」の借方、貸方を理解した。

明けて翌日の2月9日。

もう一度「金銭出納簿」を復習したオバちゃんたちは、今度は、次の4つの帳簿の付け方を習った。

1. 貯蓄、2. グループからグループメンバーへの小口融資、3. 利子、4. 銀行帳

ここでも、また練習問題に次ぐ、練習問題。帳簿ごとに、“入金”か?“出金”か?を繰り返したオバちゃんたち。「金銭出納簿」の付け方だけで、頭はフル回転だったため、次の貯蓄、小口融資、利子、銀行帳などの帳簿になったら、もうフル回転どころか、オーバーヒートしてしまった。もう何も頭に入らな—いっとフラフラになってしまったオバちゃんたち。フラフラしているオバちゃんに与えられた次なる課題は、2日間の会計基礎研修で習ったことをグループメンバーと共有する、ということであった。但し、条件は、読み書きのできないメンバーにもわかるように説明すること。

ワークショップ終了後、2,3日して、スタッフがミーティングを訪れると、2つのグループは、すでにワークショップで習ったことをメンバーに共有していた。ただ、残り1つのグループは、ワークショップに参加したリーダーが熱で倒れて、ミーティングが延期されてしまっていた。熱の出たリーダーのオバちゃんは、「ワークショップで頭を使いすぎたから、きっと熱がでたのよ、ハァー、来週にはちゃんとミーティングを開くわ。」と次回のミーティング日程をスタッフに伝えたのであった。

グループのリーダーたちは全員、まだ頭がパンクしていなかった1日目の貯蓄の起源、銀行の仕組み、そして金銭出納簿だけは、完璧にグループメンバーと共有していた。

リーダー：「アンタたち、よく見てなさいよ、ここにビニール袋があるでしょ。これをアタシたち SHG の共通のお財布とするわよ。ほら、ここに豆があるでしょ、これが、お金とするわよ。SHG のメンバーが貯蓄をするわね、さあ、よーく見て、この豆が貯蓄よ。ほら、皆が貯蓄すれば、豆(金)がお財布に入ってくるでしょう。」

メンバーオバチャン：「うん、うん。」

リーダー：「この豆(金)が、お財布の中に入ってくるってことは、“入金”。」

メンバーオバチャン：「へえー、なるほど。じゃあ財布から出でいく豆(金)のことは何って言うの？」

リーダー：「今からそれを言うわよ。たとえば、鉛筆をグループで買う、とするじゃない。そうするとお財布から豆が出ていくでしょう？これは、“出金”。」

メンバーオバチャン：「ふん、ふん。」

リーダー：「じゃあ、また問題よ。銀行からお金をおろしてくるでしょ、これは、“入金”？それとも“出金”？」

メンバーオバチャン一同：「えーっと、SHG のお財布に銀行からお金が入ってくるのだから“入金”！」

リーダー：「よく出来たわ。じゃあ、次の問題ね。。。」

と、メンバー一同、ビニール袋に出たり、入ったりする豆を見ながら、「入金！」、「出金！」を繰り返した。他の仕訳帳は、残念ながら全くグループメンバーに説明できなかったリーダーのオバチャンたちだが、それは、次回のワークショップでおさらいする予定。

あるグループでは、ビニール袋(グループの財布)と豆(金)、あるグループでは、お皿(財布)とおもちゃの腕輪(金)など、いろいろ工夫を凝らして、読み書きの出来ないメンバーでも、「入金」と「出金」が理解できるように、説明していた。

このオバチャンたちが、立派なトレーナーになる日は、そう遠い日ではないような気もしてきた。しかし、運営委員会に選ばれたオバチャンへの本格的なワークショップはまだまだこれから。いろいろな帳簿の付け方が理解できて、バランスシートがつけられるようになった時、はじめて、オバチャンたちは、自分のグループの経営が、大量の負債を抱えていることに気づくわけだが、それにはまだもうちょっと時間がかかるのであった。

生産・物流センター計画&運営委員会、第2次選考結果

第2次選考に残った5つのグループは、「あと1ヶ月あるんだから、見てなさい！絶対、運営委員会に選ばれるようにするからっ！」とスタッフに宣戦布告をしていたが、そのコトバどおり、すべてのグループが2月末に、生産・物流センター計画&運営委員会のメンバーとして選ばれた。この5つのグループのオバチャンたち、1月末に3つのグループが第1次選考で選ばれたことで、2月は、グループの活動にさらに力が入った。

「あのグループに負けてられない。アタシたちだって、PCUR-LINK 事業のパートナーになりたいっ！」

と、貯金も全員、ローン返済も全額、ミーティングも 100%の出席率で 2 月の活動を終えた。

これが、「スタッフがミーティングに来なきゃ、ミーティングも開かない、ローンも返済しない、貯蓄もしない、ミーティングを開いても参加しない」というグループと同じグループか?!と思うような変化であった。彼女たちは知らない間に、すでに SHG が、単なる貯蓄のグループではない、どっかからローンを低利子でもらえるだけのグループではない、ということに気がつき始めている。そして「アタシのグループ」という所属意識も高まってきている。

活動が活発な第 1 次選考で選ばれたグループを見て、自分たちもそれを真似しようとする、プロジェクトに自ら参加したい、というイニシアチブを取る、そんな SHG は今までゼロだったのだ。オバチャンたちから、オバチャンたちへ、その活力が伝わってゆく。その兆しが、垣間見られたような 2 月であった。具体的な会計や商品開発、センター運営などの研修を通じて、生産・物流センターの計画&運営に必要な技術、知識を、オバチャンたちが身につけ、その知識を他のオバチャンたちに伝えてゆく、もちろん同センターだって儲かっていかなくちゃ、いけない。

オバチャンたちが、知恵熱を出したって、なんだって、頭をフル回転させて会計を覚え、商品開発を覚え、センター運営を覚え、と研修はまだまだ続く。それでも、次回の研修に参加するのが、最近、楽しみになってきたオバチャンたちであった。

ビシャカパトナムにやってきた“じゃいか”の人

~ JICA デリー事務所、平本実さんのビシャカパトナム訪問記 ~

平本さんは、2 月 8 日、9 日の SHG オバチャンが頭をフル回転させたワークショップに参加。10 日には、今回、生産・物流センター計画&運営委員会の第 1 選考で選ばれた 3 つのグループのあるビシャカパトナム最大のスラム、「コバリトッタ」に出かけた。

7 月の PCUR-LINK 事業開始式にもビシャカパトナムに、じゃいかの人は、来てくれたが、オバチャンたちにとっては、久しぶりの「じゃいかの人」であった。スラムの入り口で、花をプレゼントして、平本さんをお迎えしたオバチャンたち。3 つのグループのメンバー、20 数名が、洗濯屋を生業としている人々が暮らすスラムの一角に集まり、洗ったばかりの洗濯物がはためく中、ミーティングは始まった。

平本さん：「あなたたちのグループは、生産・物流センター計画&運営委員会に選ばれたわけですが、何か同センターで始めるビジネスのアイデアはありますか？」

オバチャン 1：「うーん、まだ委員会に選ばれたばかりなので、ビジネスのアイデアはありません。アタシたち、今まで自分のグループのことだけ考えていたけど、この委員会のメンバーとして、他のグループのことも考えて、いろいろ規則をとかも作らなくてはいけなくて、また会計のことも理解しなくてはいけなくて、ビジネスのことはこれから、みんなで一緒に考えていかなくてもいけない、と思っています。」

平本さん：「今までの自分たちのグループの貯蓄金額を知っていますか？」

オバチャン2：「アタシは読み書きできんけど、グループの貯蓄金額は知っているわ。合計で14,510 ルピーよ。」

オバチャン3：「アタシたちのグループは、11,200 ルピーよ。」

オバチャン4：「アタシたちのグループは、最新の貯蓄高はわからないの。だって、最近、借金の返済に困って、貯蓄を取り崩して、借金返済に充てた人が3人いたの。そのうち、1人への支払いが済んでないから、最新の金額は出ていないわ。」

平本さん：「今回は、皆さんの活動を見せていただいて、ありがとうございました。皆さんのグループはとても素晴らしい活動をされておりました。これからもより一層のご活躍をお祈りしています。特に、皆さんはこれから責任を持って、生産・物流センター計画、運営をされてゆくわけですから、がんばってください。」

オバチャン5：「私たちのグループのこと、褒めてくれるのは嬉しいわ。でも、一体どういうところが“素晴らしい”のよ？」

平本さん、質問ばかりしていたのが、オバチャンたちに逆に質問されてしまう。しかも、オバチャンの質問は、一般的な表現でなく、具体例を挙げさせるようなものである。これは、ひょっとしたら、ワークショップやチェンナイへの視察で、ファシリテーターたちに質問攻めにされた成果か？！

平本さん：「えーっと、えーっと、自分たちのグループのことだけを考えず、他のグループのことも考えている、共同で何かしていこう、とされていることが素晴らしいと思いました。今回、委員会のメンバーに選ばれなかったグループにも同事業の利益が得られるよう、皆さん、是非、がんばってください。」

オバチャンたちの質問攻めは、日本にもこうした SHG があるか？アタチたちが日本に行って、SHG の話をしてやろうか？と続いたのであった。。。

オバチャンたちの質問に、一つずつ丁寧に答えてくれた平本さん。

オバチャンたちにとっては、「じゃいかも、ソムニードも、マヒラ・アクションも、PCUR-LINK 事業のパートナーとして、SHG をサポートしてくれている！」という気持ちを新たにすることができた、平本さんのピシャカパトナム訪問であった。
